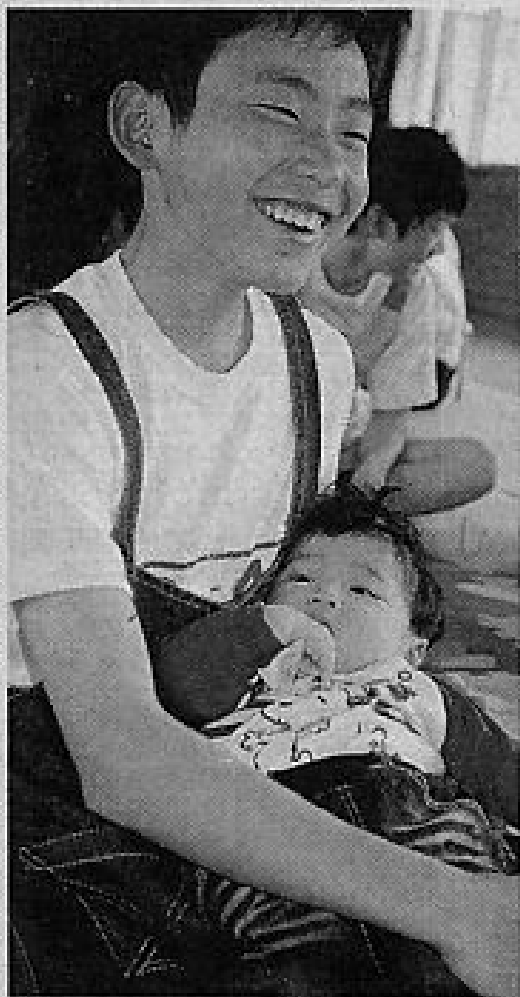


2017. 6. 1

小さな命の ぬくもり体感

倉吉・東中「ふれあい会」



赤ちゃんと触れ合う生徒

中学生が小さな命のぬくもりを体感する赤ちゃんと「ふれあい会」が五月三十日、倉吉市宮川町二丁目の東中学校（西

嶋尊昭校長）で開かれた。三年生三十人と倉吉養護学校生一人が乳児を抱いたり、父母から子育ての話を聞くなどして交流

し、有意義な時間を過ごした。NPO法人未来が県教委の委託を受けて実施したもので、同市内の乳児と母親十二組が参加した。

生徒らは、鳥取大学医学部の高塚人志准教授をアドバイザーに、数人ずつのグループに分かれて交流。生徒たちは、母親から育児の苦労話を聞いたり、小さな赤ちゃんをそっと抱いて笑顔で話しかけ、手に伝わる肌の柔らかさ、ぬくもりを実感した。

生徒の定常太貴君（18）

は「最初はなかなか懐いてもらえなかった。でも、何とかあやせたかな」とにっこり。生後三カ月の倅太ちゃんを連れた豊原弘美さん（35）も「同市殿城Ⅱは「お姉さんをじっくりみて安心しきっている感じ」と目を細めていた。

西嶋校長は、ふれあい会について「人間の持っている素晴らしさに気がつかせていくため」と話していた。

生徒たちは、成長した赤ちゃんたちと九月に開かれるふれあい会で再会することになっている。